

## 令和5年度 宮城県特別支援教育将来構想審議会実地調査について

令和5年6月5日

宮城県教育庁特別支援教育課

## 1 目的

宮城県特別支援教育将来構想、後期計画で整理された3つの優先課題の解決へ向けての「主な取組」について、毎年度3件程度を選定し、実地調査を行い、その後の審議会での評価をお願いします。

評価いただいた内容は、次期の宮城県特別支援教育将来構想に反映することとしています。

## 2 日程

令和5年7月～11月

視察時間は事業の内容によりますが、おおむね2時間程度とします。

## 3 調査を実施する取組

## (1) 特別支援学校における進路指導充実

目標	自立と社会参加
主な取組	特別支援学校における進路指導充実
事業名	5 特別支援学校進路指導充実事業
担当課	特別支援教育課、県立特別支援学校
事業内容	○特別支援学校地域連携協議会の開催 ○講演会の実施 ○進路支援研修会の実施
取組方針・達成目標	県立特別支援学校に在籍する生徒一人一人の高等部卒業後の自立と社会参加に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促すため、校内の組織体制の整備や労働・福祉等の関係機関と連携、地域や産業界等の人々の積極的な協力を得るなどして進路指導を充実させる。
令和4年度実績	○新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じながら各校の状況に応じて地域連携協議会や研修会、講演会などを実施した。また、昨年度に引き続き、関係機関と電話等で情報共有を図った。 ○9月2日(金)会場変更、感染対策を行い、県内特別支援学校進路指導主事を対象に進路支援研修会を実施した。一條牧場代表一條重人氏並びに一條牧場で働く県内特別支援学校卒業生の講演後、パネルディスカッションを実施した。 ○必要に応じて卒業生の就労先を訪問するなど個別のアフターケアを実施した。
令和5年度事業概要	○進路指導連絡協議会の実施(3ブロック実施) 北部[代表校:小牛田高等学園]、中央[代表校:利府支援学校]、南部[代表校:聴覚支援学校] ○進路支援研修会の実施(対面での情報交換を再開予定。進路指導担当者の横のつながりを強化していく。) ○各学校の進路指導主事を対象に新しい職域とのネットワーク作り

## (2) 共に学ぶ教育の推進

目標	学校づくり
主な取組	共に学ぶ教育の推進（優先課題3）
事業名	8 共に学ぶ教育推進モデル事業
担当課	特別支援教育課、県立特別支援学校、市町村教委、小・中学校等
事業内容	○モデル校による支援体制の構築 ○共に学ぶ教育推進検討会の開催 ○先進地の視察
取組方針・達成目標	令和2年度に第Ⅱ期共に学ぶ教育推進モデル事業の3年目を迎えるに当たり、第Ⅱ期の課題の整理と第Ⅲ期共に学ぶ教育推進モデル事業（令和3年度～令和5年度）実践校の選定を行う。また、令和4年度中に令和6年度以降の事業推進の在り方を提示する。
令和4年度実績	第Ⅲ期 共に学ぶ教育推進事業（令和3年度～令和5年度）2年目 モデル校7校：角田市立桜小学校 角田市立北郷小学校 角田市立北角田中学校 大崎市立松山小学校 大崎市立松山中学校 角田高等学校 松山高等学校 成果：ユニバーサルデザインについての理解が進み、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境整備や授業づくりが進むとともに、教職員が教科の枠を越えて一丸となって授業づくりに取り組む学校も見られた。
令和5年度事業概要	第Ⅲ期 共に学ぶ教育推進事業（令和3年度～令和5年度）3年目 モデル校7校：角田市立桜小学校 角田市立北郷小学校 角田市立北角田中学校 大崎市立松山小学校 大崎市立松山中学校 角田高等学校 松山高等学校 ・専門家派遣（モデル校毎 年3回実施） ・実践事例の蓄積と最終年次のまとめ ・専門家等連絡会の実施（令和6年2月19日を予定） ・先進校視察（希望に応じてモデル校1校につき、1名分の旅費支給）

## (3) ICT機器の活用

目標	学校づくり
主な取組	児童生徒等への支援
事業名	22 入院生徒に対する教育保障体制整備事業
担当課	高校教育課、特別支援教育課
事業内容	入院生徒の教育保障に対する調査研究
取組方針・達成目標	教育庁と保健福祉部が連携し、令和2年度までに調査研究を進め、県立高校における入院生徒に対する教育保障体制の構築を図る。また、令和3年度から、医療機関と教育機関が連携し、学習支援を求めるすべての入院生徒に対してICT機器の活用による遠隔教育を中心とした学習支援を行う。
令和4年度実績	○高等学校段階の長期入院生徒に対し、必要に応じて学習用デバイスやWi-Fi接続機器、テレプレゼンスロボット(Kubi)の貸し出しを行い、所属校による同時双方向型遠隔授業によって学習支援を行った。 ○要請を受けての支援実績は10件。支援により、1年以上の長期入院にもかかわらず進級を認定された生徒もいた。 ○医教連携コーディネーターが作成した資料をGoogle Classroomに掲載し、本事業の周知を行った。 ○「病気療養中の高校生への学習支援の必要性と意義」の表題でGoogle Classroomによるオンラインセミナーを実施した。
令和5年度事業概要	○各種機器の貸し出し及びICTを活用した遠隔授業により、病気療養中の高校生が、学校や友人と常につながりを感じながら学習に取り組むことで心理的安定を図り、学力の保障、さらに復学の際の不安や緊張を軽減させるといった教育支援を継続する。 ○今年度から一定の条件の下でオンデマンド型授業が授業の代替として認められるようになったため、病気療養中の生徒本人の病状や治療の状況により、同時双方向型の授業受講が困難な場合に適切に活用されるよう周知を進める。

4 その他 令和5年11月以降に（仮称）秋保かがやき支援学校の内覧会を予定しています。